

## 令和3年度第2回秦野市上下水道審議会(書面開催)の結果について

## 1 料金改定について

## (1) 改定の時期について

- ア 意見等あり 0名  
イ 意見等なし 15名

## (2) 改定率について

- ア 意見等あり 1名  
・ 改定率を決めた根拠について、しっかりと整理する必要があると考えます。  
イ 意見等なし 14名

## 2 今後の料金体系のあり方について

選択項目	回答数	割合
ア 料金体系を見直したほうがよいと思う。	8名	53%
イ 見直しの必要性は理解できるが、現行の料金体系でよいと思う。	5名	33%
ウ 見直しの必要性を感じない。	0名	—
エ わからない。	1名	7%
オ その他 ・ 上下水道事業を健全かつ安定して維持運営していく上で、ご説明いただいた現行の料金体系の課題をそのままにしておくことはよろしくないように思います。料金体系をすぐに改定するかは別として、いくつかの想定の下、料金体系の見直しによる効果をシミュレーションした上で、将来に向けた適切な判断をする必要があるように思います。	1名	7%

### 3 地下水（自己水）比率について

選択項目	回答数	割合
ア 料金に影響したとしても、地下水（自己水）の比率の低下を防ぐべきである。	4名	26%
イ 料金に影響しないのであれば、地下水（自己水）の比率の低下を防ぐべきである。	3名	20%
ウ 料金を低く抑えられるのであれば、県水（県営水道の水）を有効利用すべきである。	3名	20%
エ 地下水（自己水）に頼ることは、地震や汚染などによる断水のリスクが高くなるので、県水（県営水道の水）を有効利用すべきである。	3名	20%
オ わからない。	1名	7%
カ その他 ・ 地下水を水源とすることのデメリットはありますが、現時点で想定していないような事態（噴火など）も起こりうることから、複数の水源をバランスよく保持しておくことは、事業者としてメリットがあると考えます。	1名	7%

### 4 その他

#### (1) 御質問

- ・ 議題3に関して、地下水は地震時の断水リスクが高いとのことですが、県水は地震時の断水リスクは無い又は著しく低いということでしょうか。災害リスクに対するリスクコントロールの方法としては、一般的には「分散」「多重化」が考えられ、寧ろ取水地点の分散につながる地下水活用は、取水を県水に絞っていくことに比べ、リスク耐性が強くなるのでは、という考えもあろうかと思いました。

#### 【回答】

地震など自然災害時に、地下水は枯渇による取水量の低下、水質汚染や濁りの発生による断水が考えられます。

県水も管路や施設の破損による断水が考えられますが、県では緊急

時の水系のバックアップ体制が整っており、現在供給を受けている酒匂川水系が取水出来なくなった場合、相模川水系で取水された水が供給されることとなっていますので、破損以外の要因による断水リスクは低いと考えています。

## (2) 御意見

### ア 料金改定に関して

- ・ 地下水の使用は、秦野市にとって特色ある財産の1つになっていると考えます。良識の範囲内における料金への影響であれば、受け入れて頂けると考えます。その際には市民の方々にていねいに説明する説明責任が求められると思います。
- ・ 今後の水道運用については、「名水の里秦野」を掲げていることもあり、可能な限り自己水を持続的に活用し、おいしい水道水を維持してもらいたい。社会的情勢、天災的な災害も今後視野に入れ、料金等の見直しは必要と感じました。

### イ 補填財源残高に関して

- ・ コロナ禍において、各事業体の条例や規程等に基づき水道料金の減免がなされている事例が見受けられ、その補填財源の多くは国からの「地方創生臨時交付金」が充当されていました。しかしながら、全ての事業体が「地方創生臨時交付金」など政策的な経費を一般会計から充当されたわけではなく、貴市同様に一部水道事業会計から負担された事業体もあり、その負担については、内部留保資金（過年度分損益勘定留保資金など）を充当している事例が多く見受けられました。

コロナ禍に係る水道料金減免は、経済対策、社会福祉対策の一環としてなされるものであるという性質を踏まえれば、その原資は、基本的には一般会計に求められるべきであるが、貴市同様水道事業会計で負担された団体については、減免の対象範囲や減免期間、経営に与える影響などを勘案して実施されたと推察されます。ただ、貴市ご承知とは存じますが、独立採算による運営が求められる水道事業において、当該減免を水道事業会計により実施された場合、老朽化した管路・施設の更新に影響が生じる等、過大な負担を将来の水道利用者に先送りすることが懸念されます。

現在のコロナ禍という特殊事例、補填財源（内部留保資金など）の

本来の目的などを勘案すると、文中「新型感染症と同様の事態が発生しても柔軟に対応できるよう財源を確保」の記述は、削除もしくは修正されるのがよろしいかと存じます。

## ウ 地下水（自己水）に関して

- ・ 自己水率について

「市民意識」の結果をみても秦野市の水道水は、「地下水を使用しているので、安くてうまい」と市民の常識にあると思います。また、『はだの上下水道ビジョン』に新水源整備などを掲げていることから自己水率を維持していきたい思いも理解できます。一方、貴市ご承知のとおり地下水は、土壌の影響を受け水質悪化に繋がること、震災の影響で水脈がずれ枯渇することなどデメリットがあるのに対して、新たな取水場を整備する必要性があるのか疑義が生じます。ただ、今後大規模地震の発生は予想されており、災害時における市民への給水体制など対策が重要になってきます。

このことから災害時に予想される枯渇の対策に県水を活用することは、たとえ自己水率が低下したとしても、災害時の水道水確保に繋がりに、「公助」になると考えます。

- ・ 議題3に関わりますが、水道水の水源比率が変わることについては市民から様々な意見・反応があると思いますので、不安や不信につながる事が無いように丁寧な説明や普及活動に努めて頂きたいと存じます。
- ・ 議題3については、状況によると思います。基本的には地下水の利用が市民の皆さんにとっては良いと思いますので、災害時等を考え、県水の利用も併用し、検討するのが望ましいのではないかと考えます。
- ・ 市民においしい秦野の水を継続して提供してほしい。

## エ その他

- ・ 老朽化更新については、計画通り行い、安全安心な水を提供頂きたいと思います。また、値上げ率については、内容を精査し、なるべく下げる方向で進めて頂ければと思います。